おはなしシリーズ 9

さるかにがっせん





おむすびを　ひろった　かにに　さるが　いいました。
「かきの　たねと　おむすびを　こうかんしようよ。
たねを　うえたら　おいしい　みが　どっさり　なるよ。」
「それは　いい。　こうかんしよう。」
かにが　たねを　うえて　まいにち　みずを　やると
かきの　みが　たくさん　なりました。

かには　かきを　とろうと　おもいますが
つるんと　おちて　きに　のぼることが　できません。
かにが　こまっていると　さるが　やってきました。





「きのぼりは　おいらに　まかせて。」
さるは　するすると　きに　のぼり
かきを　ぱく　ぱく　ぱくと　いただきます。



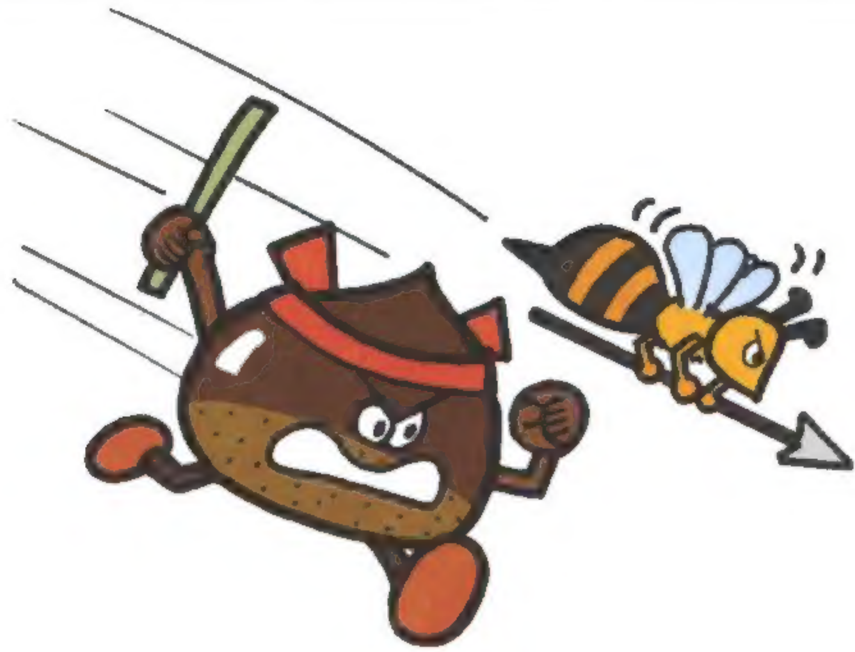
「ぼくにも　ひとつ　とっておくれ。」
かにが　おねがいしても　まだ　ぱく　ぱく。
しまいに　さるは　かきを　かにに　なげつけました。
かわいそうな　かには　いたい　いたいと
なきながら　にげていきました。



げんきになった　かには　あるひ
うすと　くりと　はちに　いいました。
「いっしょに　さるの　いえに　きておくれ。」
さるが　いない　あいだに　くりは　いろりに
はちと　かには　みずがめの　ちかくに
うすは　やねのうえに　かくれました。



「あー　そとは　さむかった。」
さるが　いろりに　あたろうとしたときです。
くりが　ぱちんと　はじけて　さるの　かおに　あたり
はちが　さるの　てを　ちくり　ちくりと　さしました。



さるが　あわてて　そとに　でると
こんどは　いしうすが　どすーんと　おちてきました。
さいごに　かにが　さるの　あしを　はさみで　ちょきん。
「ごめんなさい　もう　わるさは　しません。」
さるは　ないて　あやまりました。